

はあとふる ふくしま

2023

3月

No.315



2022年度シリーズ
ふくしまのみらい

- 「どっちが速いかな？競走しよう！」
- “なわとび電車”でかけ回る
- 元気いっぱいの一コマです
- (飯館村立までの里のこども園・飯館村)



特集
復興公営住宅入居者と
地域をつなぐ

～避難者地域支援コーディネーターの活動～



シリーズ[未来へつなごう“ふくしま”から]
心をこめた作業で届ける『はあとふる・ふくしま』
～いいざかワークの取組み～



「はあとふるふくしま」は作成経費の一部に、共同募金配分金及び特別賛助会員の寄付金を使用しています。

目の不自由な方のために「はあとふるふくしま」は音訳版および点訳版を作成しています。



復興公営住宅入居者と地域をつなぐ

避難者地域支援コーディネーターの活動

県社協は今年度から「避難者地域支援コーディネーター（以下、「コーディネーター）」を新たに配置し、避難者が現在の居住地で安心して生活できるよう地域支援の充実強化を進めています。今月号ではその取り組み事例を紹介するとともに、復興公営住宅を管理する県営住宅管理室との連携にスポットを当てます。また、「復興公営住宅入居者実態調査モデル事業」についても報告します。

3つの取り組みを通して 避難者の孤独・孤立を防止

東日本大震災と原発事故から12年が経過しました。避難生活の長期化に伴い、県内の復興公営住宅では入居者の高齢化が進み、団地や地域に馴染めず孤独・孤立を深める人が増えています。こうした課題を解決するため、県社協は今年度から17市町村社協に26人のコーディネーターを新たに配置しました。

コーディネーターの主な取り組みとしては、次の3つが挙げられます。一つ目は「復興公営住宅見守り連携会議」です。関係市町村社協が連携して見守りを強化するため、定期的に企画・開催しています。二つ目は「居場所づくり・サロン活動・地域交流」です。復興公営住宅の全入居者、さらに地域住民も参加できる企画を運営して交流を促進します。三つ目は「復興公営住宅と立地地域との関係づくり」です。コーディネーターが地域の関係機関などと顔の見える関係をつくり、情報交換から課題共有、課題解決に向けた取り組みを行います。それぞれの取り組みについて、三春町、大玉村、白河市の事例を紹介します。

事例① 三春町

三春地区避難者見守り連携会議で連携強化 ～5年後、10年後を見据えた支援体制構築へ～

三春町社協のコーディネーターは、3カ月ごとに「三春地区避難者見守り連携会議」を開催しています。昨年6月に開催した第1回連携会議には、三春町内の復興公営住宅で支援活動を行っている大熊町、富岡町、双葉町、葛尾村の各社協の生活支援相談員が出席。支援の現状や課題についての情報交換、今後の支援に向けた意見交換を行い、緊急時に三春町社協と避難元社協が速やかに連携するため、緊急連絡先カードを整備する



3カ月に一度開催している三春地区避難者見守り連携会議。関係者の情報共有、意見交換の場となっています。

◆コーディネーターは復興公営住宅でのサロン開催のほか、防災教室や防犯教室などさまざまな企画も実施しています。



ことなどを確認しました。

9月に開催した第2回連携会議では、日頃から三春町社協と連携しているNPO法人みんぷくが参加。同法人のコミュニティ交流員が復興公営住宅で行っている入居者同士の交流促進や自治会設立・運営支援などの活動について報告し、今後お互いに連携していくことを確認しました。

三春地区避難者見守り連携会議を通して三春町社協と避難元社協、関係機関の連携を強化し、目の前の課題解決を図ると同時に、5年後、10年後を見据えた支援体制の構築を目指しています。

事例②
大玉村

サロンで避難者同士・地域住民との交流を促進
～ニュースポーツ体験で健康増進効果も～

大玉村社協のコーデイネターは、避難者同士の交流および避難者と地域住民の交流の場として、月に一度「おおたま社協サロン」を開催しています。健康のために体を動かし、かつ気分転換にもなるニュースポーツを多く取り入れています。

昨年5月のサロンでは、パラリンピックの正式種目にもなっている「ボッチャ」や、「モルック」などを体験。6月は大熊町社協の生活支援相談員と大熊町老人クラブ連合会の会員を講師に招き、「囲碁ボール」に挑戦しました。ほとん



▶碁盤のマット上で白と黒のボールを打ち、五目並べを行う囲碁ボール。誰でも簡単に楽しめ、おおいに盛り上がりました

◀安達太良山を望む村民運動場で開催されたグラウンドゴルフ大会。94歳の方も元気に参加しました



どの参加者が初体験でしたが、誰でも簡単に楽しめ、一発逆転があつて勝負としてもおもしろいと好評でした。9月は、グラウンドゴルフ大会を開催。94歳の方も参加し、秋空の下で心地よい汗を流しました。

サロン活動は避難者同士、避難者と地域住民との交流の場であると同時に、コーディネターにとつては情報収集の場でもあります。何気ない会話の中から避難者が抱える課題を吸い上げ、解決へとつなぐこともコーディネターの大切な役割の一つです。

事例③
白河市

防災教室開催で立地地域との関係づくり
～入居者同士の助け合い意識も向上～

昨年6月、市内に2カ所ある復興公営住宅の一つ、南湖南団地で白河市社協のコーディネターや、NPO法人みんぶく、双葉町社協が合同で、防災教室を開催しました。まず白河市役所が総合防災マップを活用した災害の備えについて説明。続いて地元自治会長が東日本大震災や令和元年台風19号の際の被害状況と地域がつながる機会にもなりました。

防災教室の参加者からの要望にこたえる形で、翌7月には震度5弱以上の地震発生を想



▶市役所職員や地元自治会会長を招いて開催した防災教室。地域の災害履歴や避難場所について学びました

◀安否確認訓練には、これまで他の行事に参加したことなかった入居者も参加し、防災意識の高さが伺えました



定した「安否確認訓練」を実施。ほとんどの世帯で安否確認ができ、「自助・共助・公助」に加え「近助」が大切。みんなで力を合わせて行う」と再確認しました。防災意識が高まり、安否確認のための名簿を作成するなど、復興公営住宅の入居者間の協力体制ができています。

さらに10月には、南湖南団地集会所で白河市社協の出席講座「炊き出し訓練」を行いました。コーディネターと各関係機関が協働して多彩な企画を行い、入居者同士の交流や復興公営住宅と立地地域の関係づくりを進めています。

コーディネーターと県営住宅管理室の連携で

高齢化が進む復興公営住宅の課題解決を目指す

コーディネーターが顔の見える関係づくりを進める関係機関の一つに、復興公営住宅を管理する「県営住宅管理室」があります。どのような連携をしているのか、またコーディネーターの配置によってどんな変化があったのか、相双地区県営住宅管理室（以下、「住宅管理室」）の高木和彦室長に伺いました。

南相馬市や双葉郡の社協と さまざまな面で連携

住宅管理室が管理している相双地区の復興公営住宅は南相馬市に5棟、広野町に1棟あります。「約1100世帯が入居しており、ほとんどが双葉郡の方です」と高木室長。以前から社協と関係機関による連絡会議に参加したり、さまざまな面で復興公営住宅のある南相馬市社協や



▲相双地区県営住宅管理室の高木和彦室長。復興公営住宅の見守り活動では対象者宅を訪問し、直接会って話すことを大事にしているそうです

▲今年度から関係社協が同じ黄色の腕章をつけて復興公営住宅の見守りを実施。出身自治体に関係なく、入居者が気軽に相談できるようにしました



双葉郡の各社協と連携してきたといえます。

「入居者の安全を守るという目的は社協も我々も同じです。我々には福祉関係の知識がないので社協のお力をお借りしますし、逆に緊急で安否確認が必要な場合は社協からご連絡いただき、我々がその後の対応をしています」。お互いの協力・連携がないと成り立たないと、高木室長は話します。

社協間の垣根がなくなり 見守り体制の強化を実感

住宅管理室では月1回、高齢者や持病・障がいのある方を中心に復興公営住宅の見守り活動をしています。この活動を通し、入居者の高齢化や孤独・孤立など多くの課題に気づいたという高木室長。今年度からコーディネーターが配置され、社協連携による見守り活動が始まったことで徐々に変化が現れていると話します。「これまでは避難元社協がそれぞれ対応していましたが、今年度から関係社協が同じ腕章をつけて団地全体を見守るようになりました。社協間の垣根がなくなり、良い結果が生まれていると感じます」。高木室長自身もコーディネーターと連絡を取る機会が増え、社協と連携しやすくなったといいます。



▲県社協や住宅管理室など関係機関が参加する南相馬市復興公営住宅見守り連携会議をコーディネーターが隔月で企画・開催し、連携強化を図っています

また、今年度からはコーディネーターが企画開催する復興公営住宅見守り連携会議に出席し、社協や関係機関と情報共有や意見交換をしています。前回の会議では、室長が以前から感じていた「入居者が少ない自治体出身者は遠慮して輪に入れない」という課題を提起。これを受けて生活支援相談員がより積極的に声かけを行い、最近ではサロン活動を楽しみにする人が増えたと感じるそうです。

今後はコーディネーターを中心に、社協とさらに良好な関係を築きたいと高木室長は話します。「今後ますます復興公営住宅の入居者の高齢化が進みます。高齢者を守るには、社協と我々が力を合わせる必要があります」。避難者が安心して暮らせる地域づくりのパートナーとして、これからも社協と住宅管理室は連携していきます。



▲昨年12月に南相馬市の南町復興公営住宅でコーディネーターが企画開催した「おはなし&クリスマス会」。地域住民も参加して交流を深めました

郡山市で復興公営住宅入居者 実態調査モデル事業を実施

**入居者の不安や課題などの
実態を把握する初めての調査**

県社協避難者生活支援・相談センターは今年度、「福島県復興公営住宅入居者実態調査モデル事業」として、郡山市内の復興公営住宅18団地・約570戸（空室も含む）を対象に初となる実態調査を行いました。

コーディネーターの活動の場である復興公営住宅の入居者が抱える不安や課題などの実態を把握し、現在の居住地において安心した生活が送れるよう地域、団地ごとの課題への的確な対策を展開するとともに、今後の被災者、避難者支援の方策を検討することが目的です。

また、郡山市のモデル事業をもとに来年度、県内の復興公営住宅全戸約5千戸の実態調査を行う予定です。



▲郡山市社協避難者生活支援相談室の渡部明美室長

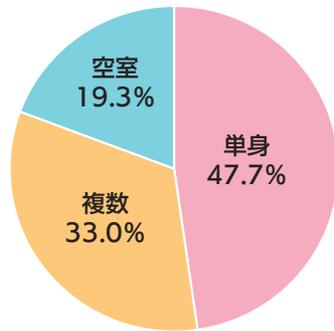
**調査結果をもとに団地ごとの
特性に合った支援を展開**

モデル事業は県社協、郡山市社協、避難元社協が連携して実施。世帯構成のほか、「日常生活と心身の健康」「社会的な関わり維持」など4区分・35項目について個別訪問による聞き取り調査を行いました。

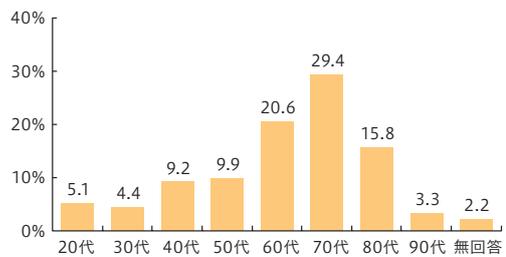
調査結果の世帯構成では、入居者の高齢化が改めて浮き彫りになりました（図①～③）。また、「避難元自治体への帰還（生活再建）を希望している、予定している」という項目には、5割以上の方が「不明」と答えています（図④）。「郡山市の復興公営住宅を『終の棲家』と考えている方でも、帰還への希望と現実の生活の不安と迷いがあり、心が揺れ動いていることが伺えます」と、郡山市社協避難者生活支援相談室の渡部明美室長は分析します。

復興公営住宅入居者の高齢化が進み、課題が個別化・複雑多様化する中、避難者と地域住民が相互に助け合う仕組みづくりの推進が今後ますます重要になります。郡山市社協で

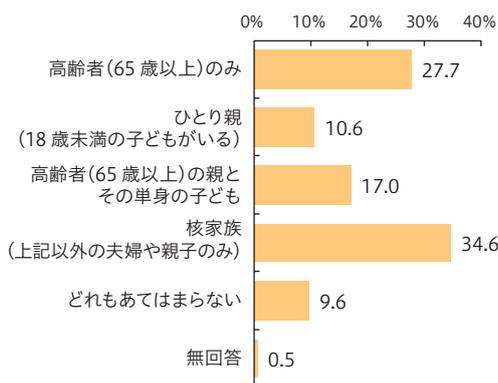
図① 世帯構成 回答数=570



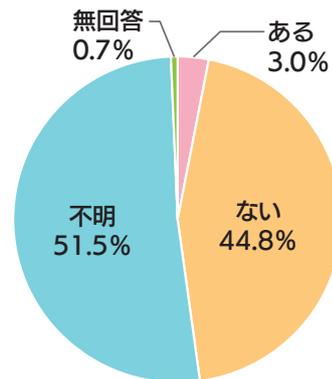
図② 単身の場合の年齢 回答数=272



図③ 複数の場合の家族形態 回答数=188



図④ 避難元自治体への帰還を希望している、予定している 回答数=460



は、今回の調査結果をもとに団地ごとの特性に合った対策を図る計画です。「コーディネーターが地域の関係団体と連携して、これまでの個別

支援の経験を活かし、避難者支援における福祉コミュニティの形成支援に一層取り組んでいきます」と、渡部室長は意気込みます。

心をこめた作業で届ける『はあとふる・ふくしま』 ～いいざかワークの取り組み～



▲みなさん一丸となって、はあとふるの封入作業に取り組んでいます。作業は平日の9時から15時まで。10時とお昼に休憩をはさみます

取材協力

いいざかワーク

福島市飯坂町字立町 23
024-543-1666
<http://npo-yotsuba.org/>



20年以上にわたり利用者の地域生活や社会参加を支援
福島市飯坂町の「いいざかワーク」は、障がいを持つ方々が通う地域活動支援センターです。「NPO法人よつば」が運営しており、生産活動などの機会を提供して、利用者の地域生活や社会参加を支援しています。設立から20年以上の長きにわたり活動を続けており、現在は約10名の利用者が日々の活動に取り組んでいます。

現在いいざかワークでは、和気あいあいとした雰囲気の中、主に果物を包む緩衝材「フルーツキャップ」の折り作業と袋詰めを行っています。多いときには月20万枚を折ることもあるそうです。また年一回、カレンダーの梱包作業も引き受けているほか、ギフト用箱折りやタオル包装などの仕事も行ってきました。

さらにいいざかワークでは、この『はあとふる・ふくしま』（以下、はあとふる）の封筒詰め作業も行っています。『はあとふる』は県内の

経験を積み能力を伸ばす仕事を通して社会に貢献

いいざかワークでは、作業



▲『はあとふる』を封筒に1部ずつ、折れないように気をつけながら詰めています



赤い羽根で ささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111(福島県総合社会福祉センター内)
TEL(024)522-0822 FAX(024)528-1234
メールアドレス akaihane@axel.ocn.ne.jp
ホームページ <https://akaihane-fukushima.or.jp/>

皆様の募金により、 「つながり」が生まれています。

まもなく東日本大震災から12年を迎えます。復興・災害公営住宅や避難先、転居先での新たなコミュニティづくり、避難解除となった地区や津波等で被災した地区のコミュニティの再生を目的とした地域活動を支援するため、福島県共同募金会では「令和4年度赤い羽根『災害ボランティア・NPO活動サポート募金2』被災地住民支えあい活動助成事業」を実施してきました。今月号では、今年度助成を受けた団体からお寄せいただいたメッセージをご紹介します。



仕事を受けるときには、利用者さんに合っているか、内容や納期を考慮しています。作業を続けることで、できることや得意なことを伸ばして、自分の能力をより生かせるようになってほしいですね

NPO法人よつば
ホームページ



▲いざかワーク所長の佐藤侑弘さん

の留意点としてできるだけミスが少なくなるよう工夫をしています。その一つが指先の検査です。切り傷で紙を汚さないよう利用者も職員も作業前に確認します。またラベルと封筒は枚数ごとに仕分けておき、数がぴったり合うようにしています。「失敗が続くと気持ちが沈んで力が発揮できなくなってしまうので、成しながらか楽しく取り組んでほしいですね」と佐藤さん。

一方、利用者が失敗から学ぶことも成功と同じくらい大切にしていきます。利用者は間違ったところを職員に相談したり、わからないところがあれば聞いたりします。作業をスムーズに進めるため、担当の工程が終わるごとに報告などもしています。ある利用者の方は「作業は楽しいです。焦りすぎると紙を破ってしまっているので落ち着いて丁寧にやっています」と話してくれました。

今後について佐藤さんは、「利用者の年齢が上がっても作業が続けられるよう経験を積み、さらに能力を伸ばしてもらいたいですね」と話します。「この仕事なら私は負けないよ」という思いを持ってもらうことや、新しい仕事にも果敢に挑戦し、利用者の得意なことを見つけることも進めていきたいといいます。さらには仕事を通して、障がいのある方たちがたくさん社会貢献をしていることももっと広く伝えていきたいと言います。

富岡町 富岡町民自治会

助成事業名：芋煮会・クリスマス会の開催

自治会の会員と福島大学の学生が一堂に会し交流を深めることにより、避難生活のストレスを緩和しリラックスする時間を過ごすてもらうことを目的に「芋煮会」と「クリスマス会」を実施しました。避難後離れて生活することになってしまった孫世代の学生と会話しながら親睦を深めることにより、日ごろの悩みや不安から離れ楽しい時間を過ごし、今後生活していく上での意欲向上につなげるねらいもありました。

芋煮会は令和4年10月22日に、クリスマス会は同年12月23日に行いました。芋煮会は、コロナが少し落ち着いていましたので、今年初めて集合しての行事を開催し、福島大学生とサロンスタッフが作った芋煮とお弁当を食べながら「富岡我が町」を合唱したり、ビンゴゲームで大いに盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。クリスマス会も、皆でフラダンスを踊ったりして大いに盛り上がりましたが、時節柄時間を切り上げ早めに終了しました。コロナ禍で感染者の数もそれほど減っていない状況でしたが、行動制限のない年末ということで、会場・主催者の感染防止対策も十分の中で行事が開催され、ひと時でしたが、皆さんと会えて楽しい時間を過ごせました。ご支援本当にありがとうございました。今後も赤い羽根の募金には協力したいと思います。



第26回いきいき長寿県民賞について ～皆様からの推薦・応募をお待ちしています～

いきいき長寿県民賞は、年齢を感じさせない生き方をしている高齢者の方や積極的に社会参加活動を行っている高齢者団体を広く県民に紹介し、その功績を表彰するものです。みなさんの周りに、お心当たりの方(団体)はいませんか?ぜひ、ご推薦・ご応募ください!

募集期間 令和5年4月3日(月)～5月31日(水) ※当日消印有効

- 募集対象**
- 主体的に社会とのかかわりを持ち続け、現在もいきいきと年齢を感じさせない生き方をしている概ね65歳以上の方
 - 主体的に社会とのかかわりを持ち続け、現在も積極的に社会参加活動をし、いきいきと充実した生活を送っている概ね65歳以上の方で構成されている団体
- ※過去にいきいき長寿県民賞(いきいきライフ賞を含む)を受賞された方やエイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例に決定された方などを除く

問合せ先 詳しくは、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

県社協いきいき長寿室 いきいき長寿県民賞係
TEL024-524-2224 FAX024-524-2228

<参考>

令和4年度
第25回募集ポスター



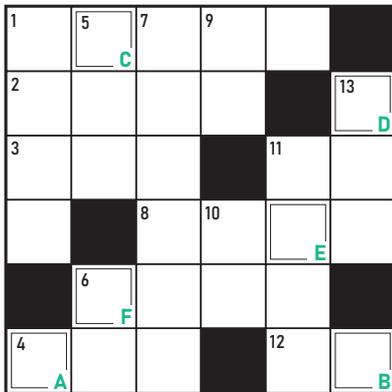
クロスワードにチャレンジ!

→ ヨコのカギ

- お風呂に入ること
- 世界
- リコピン豊富な赤い野菜
- 『○○○和歌集』は全二十巻の勅撰和歌集
- 平和を願うジョン・レノンの楽曲
- 激しい雷
- 横○○歩道。○○捨離。○○熱
- 天井のこれは時々顔に見えて怖い

↓ タテのカギ

- 江戸時代は鳴き声を「東天紅」と表記した鳥
- 未確認生物
- ⇄野暮
- 3分したら帰ってしまう巨大変身ヒーロー
- 豊臣秀頼の母
- を通す。食い○○が張っている
- 天界を追放された天使
- その人の意思に任せること



全部できたら二重ワクの6文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。

正解者から
抽選で3名に
プレゼント
が当たる



今月のプレゼント

社会福祉法人育成会 いわき学園
(いわき市 生活介護・就労継続支援B型)

手作りクッキーの詰め合わせセット

当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

応募方法

ハガキまたはEメールにパズルの答えと①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、ご応募ください。

締切

令和5年4月14日(金)

宛先

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
「はあとふる・ふくしまパズル係」

メールでのご応募はこちら!



※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。
※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。



2月号の正解

SNS(エスエヌエス)

多数のご応募
ありがとうございました

編集後記

避難者地域支援コーディネーターが活動を始めて間もなく1年。地域の实情に応じた特色ある支援が動き出しています。今回の特集では県営住宅管理室との連携も紹介しましたが、地域の社会資源の活用がますます重要になっています。
このゆか
(避難者生活支援・相談センター 今野 由香)

1月号への
読者のみなさんへ

毎号読むのを楽しみにしています。日常生活に役立つことばかりで、興味深く拝見しております。
(41歳 事務職)

民生委員としてグループホームや障がい者作業所の活動に参加させて頂いてます。何かの役に立っているなら嬉しいです。
(62歳 民生委員)

避難者支援に奮闘している、民生児童委員の皆さんのご苦勞を初めて知りました。原災災害は、様々なところに波及しているのですね。地域福祉の向上に大きな役割を担っている委員の皆さんありがとうございます。
(72歳 農業)